

年金基金だより

—— 令和5年度決算版 ——



表紙写真＝イタリア／ベネチア リアルト橋

旭化成企業年金基金

〒882-0053 宮崎県延岡市幸町三丁目101番地
延岡駅西口街区ビル4階

電話：0120-681-835（フリーコール）
：0982-22-2429（代表）

Email：kikin@om.asahi-kasei.co.jp

ホームページ：https://www.asahikasei-kikin.or.jp

令和5年度決算のお知らせ

7月8日に開催されました第50回代議員会で、当基金の令和5年度の決算および財政検証結果が承認されましたので、その概要をお知らせいたします。

■令和5年度の市場概況について

国内では、日銀の金融緩和政策の修正により金利が上昇したものの、企業の堅調な業績見通しから、日経平均は史上最高値を更新しました。米国では、金利引き下げ見通しが後退したものの、生成AI銘柄を中心に株価は大幅に上昇しました。為替は対円でドル高、ユーロ高方向に推移しました。こうした市場の状況のもとで、当基金の運用実績は+7.89%となりました。

年金経理

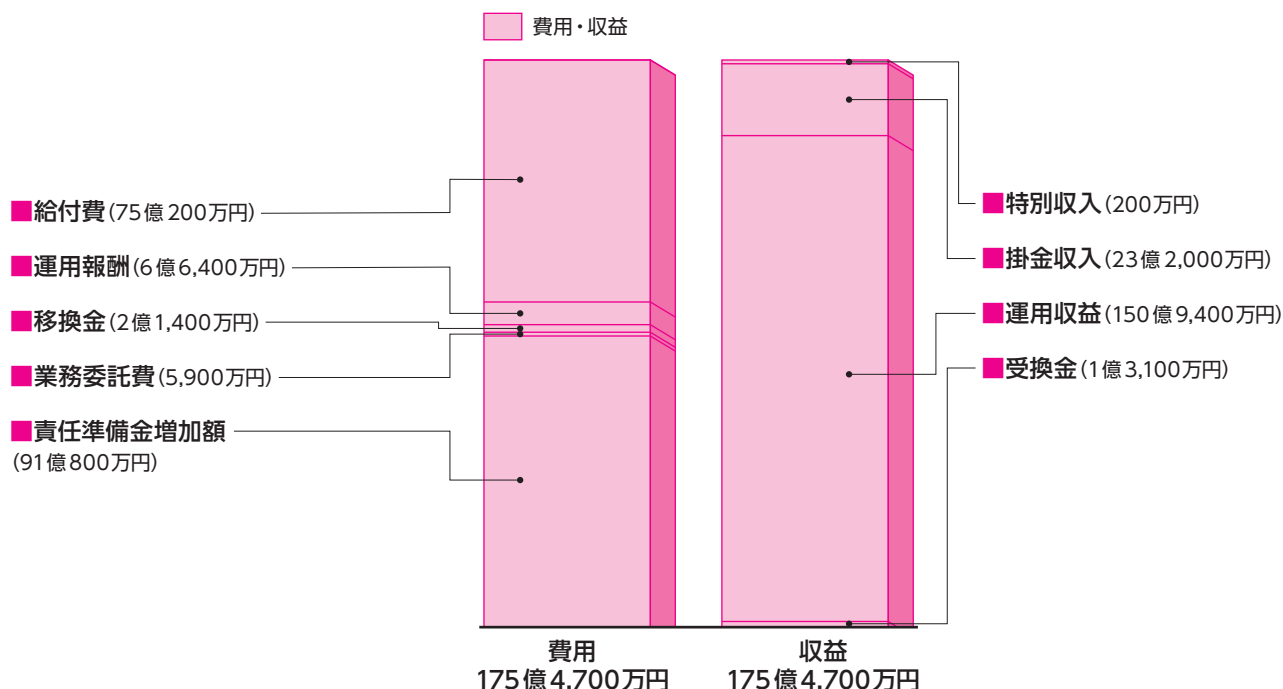
年金の給付や掛金の受け入れ、年金資産の管理運用などを行う経理です。

1年間の収支状況 (損益計算書)

91億800万円の責任準備金増加額が発生しました。

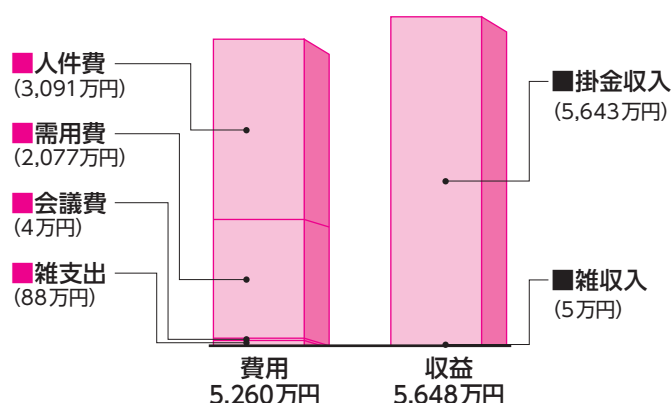
令和5年4月1日～令和6年3月31日

当年度決算(経常収支)では、支出総額が84億3,800万円に対し、収入は175億4,500万円となりました。



業務経理

業務会計 基金を運営するための経費を処理する会計です。各種費用の見直しを行い経費削減に努めました。



■年金資産の積立状況について

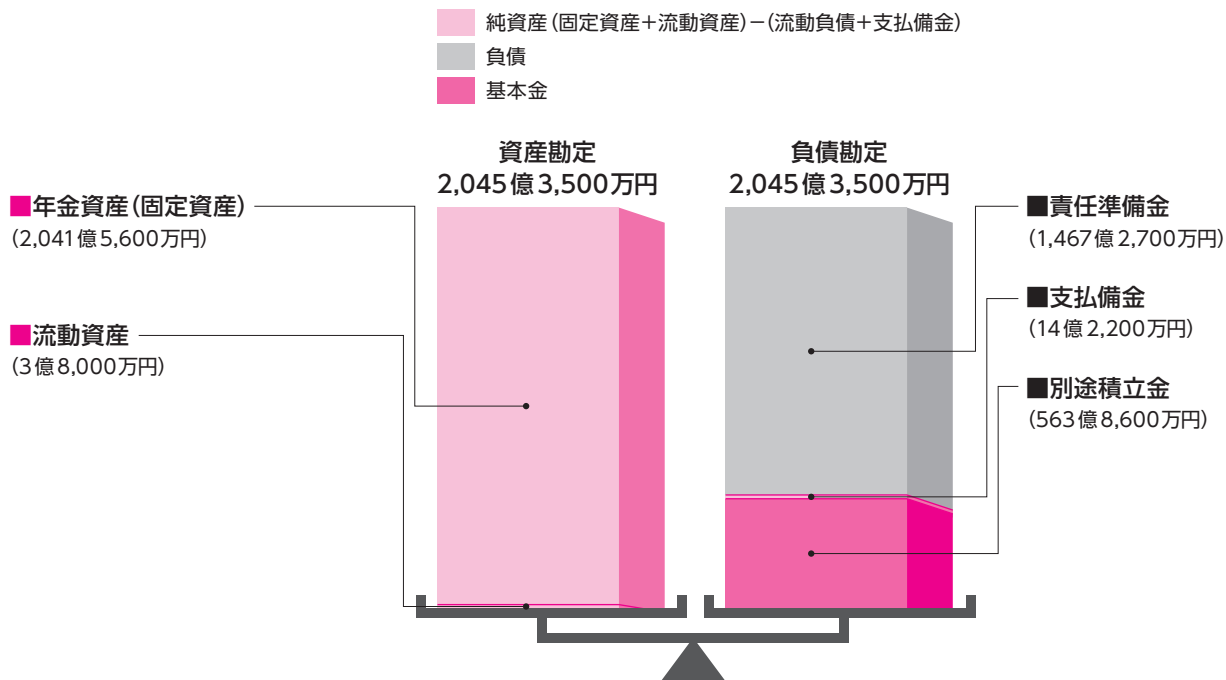
当年度の積立状況は、年金資産額(固定資産)が92億8,800万円増加し、2,041億5,600万円になりました。

資産と負債のバランス (貸借対照表)

年金資産(固定資産)は2,041億5,600万円となりました。

令和6年3月31日現在

当年度末における年金資産(固定資産)は、2,041億5,600万円となりました。一方、将来の年金給付のために積み立てられているべき責任準備金は1,467億2,700万円となっています。



基金では財政検証を実施しています

基金では、加入者・受給(権)者の皆さまの受給権保護のために、決算期ごとに年金資産の積立状況を2つの方法(継続基準、非継続基準)で検証しています。検証の結果、基準値をクリアしていない場合は、財政計画の見直し(変更計算)が必要になります。

■継続基準

将来の給付への備えに対して、財政計画上、現時点で保有しておくべき年金資産が積み立てられているかを検証します。

$$\frac{\text{純資産額}}{\text{責任準備金}} = 1.38 \text{ (基準値: 1.0以上)}$$

●検証結果

純資産額が責任準備金を上回っており、基準値をクリアしています。年金資産は順調に積み立てられており、掛金の見直しを行う必要はないことが確認されました。

■非継続基準

現時点で基金が解散したと仮定した場合に、加入者・受給(権)者への年金給付を賄う年金資産が積み立てられているかを検証します。

$$\frac{\text{純資産額}}{\text{最低積立基準額}^*} = 1.24 \text{ (基準値: 1.0以上)}$$

●検証結果

最低積立基準額に対する純資産額の割合が、基準値である1.0を上回っており、基準値をクリアしています。積立水準を確保するための措置を行う必要はないことが確認されました。

※ 最低積立基準額: 現時点で基金が解散したと仮定した場合に、加入者・受給(権)者の加入期間に見合った給付を賄うために必要な年金資産。

データで見る決算

年金経理

年金の給付や掛金の受け入れ、年金資産の管理運用などを行う経理です。
資産額は時価により、表示しています。

■貸借対照表(令和6年3月31日現在) (百万円)

資産勘定		負債勘定	
科目	決算額	科目	決算額
1. 純資産			
流動資産	380	流動負債	0
(預貯金)	(190)	(未払運用報酬等)	(0)
(未収掛金)	(189)	(未払業務委託費)	(0)
(未収受換金その他)	(0)	(預り金)	(0)
固定資産	204,156	支払備金	1,422
(信託資産)	(180,325)	(未払給付費)	(1,415)
(保険資産)	(23,830)	(未払移換金)	(7)
計	204,535	計	1,422
2. 負債			
		責任準備金	146,727
計	0	計	146,727
3. 基本金			
繰越不足金	0	別途積立金	56,386
当年度不足金	0	当年度剰余金	0
計	0	計	56,386
総合計	204,535	総合計	204,535

用語の説明

流動資産

現金や普通預金などと、当年度分の掛金収入などで、入金が翌年度になる分。

固定資産

年金給付のために積み立て、運用を行っている年金資産。

流動負債

当年度分の費用のうち、支払いが翌年度になる分。

支払備金

年金や一時金の支払時期が来ているが、実際の支払いが翌年度になる分。

責任準備金

年金給付のために、現時点で積み立てていなければならない積立金の必要額。

業務経理・業務会計

基金を運営するための経費を処理する会計です。

■損益計算書(自令和5年4月1日 至令和6年3月31日) (千円)

費用勘定		収益勘定	
科目	決算額	科目	決算額
役職員給与	19,925	掛金収入	56,433
役職員諸手当	10,981	雑収入	50
旅費	0		
代議員旅費	0		
需用費	20,766		
会議費	43		
雑支出	882		
代議員会需用費	0		
代議員会会議費	0		
計	52,597	計	56,483

■繰越剰余・不足金の状況(令和6年3月31日現在) (千円)

科目	決算額	科目	決算額
前年度繰越不足金	0	前年度繰越剰余金	17,673
当年度不足金	0	当年度剰余金	3,886
計	0	計	21,559

- ・業務経理の掛金は、会社が拠出をしています。
- ・不測の事態に備えて、最低でも年間支出総額の12分の3(3か月分)が次年度繰越剰余金として期末に残る予算としております。

令和5年度 決算のお知らせ

■損益計算書(自令和5年4月1日 至令和6年3月31日)

(百万円)

費用勘定		収益勘定	
科目	決算額	科目	決算額
1. 経常収支			
給付費	7,502	掛金収入	2,320
移換金	214	受換金	131
運用報酬	664	運用収益	15,094
業務委託費	59		
運用損失	0		
計	8,438	計	17,545
2. 特別収支			
特別支出	0	特別収入	2
繰入金	0	受入金	0
計	0	計	2
3. 負債の変動			
責任準備金増加額	9,108	責任準備金減少額	0
計	9,108	計	0
4. 基本金			
繰越不足金処理金	0	別途積立金取崩金	0
別途積立金積増金	0	当年度不足金	0
当年度剰余金	0		
計	0	計	0
総合計	17,547	総合計	17,547

用語の説明

給付費

年金や一時金を給付した額。

掛金収入

加入者と会社からの掛金。

移換金／受換金

基金を脱退・再加入した人の年金原資を、企業年金連合会とやりとりした分。

運用報酬

資産運用を委託する信託銀行、生命保険会社、投資顧問会社に支払った手数料・報酬。

業務委託費

基金が業務の一部を委託した機関に支払った手数料。

運用収益

年金資産を信託銀行や生命保険会社、投資顧問会社などの運用機関で運用して生じた収益。

特別支出／特別収入

雑収入や掛金の徴収不足分など。

〈基金の業務概況〉

(令和6年3月31日現在)

●加入者数

計	13,157 人
---	----------

●受給待期者数

裁定済待期者	312 人
未裁定待期者	313 人
合 計	625 人

●給付状況

老齢給付金	年金	8,703 件	5,991,607,000 円
	一時金	84 件	737,762,200 円
脱退一時金		135 件	190,051,400 円
遺族給付金		84 件	434,437,600 円

〈掛金拠出状況〉

		納付決定額	納付済額	不納欠損額	未納額
リスク分担型企業年金以外	標準掛金	2,371,490,482 円	2,371,490,482 円	0 円	0 円
	リスク対応掛金	217,562,000 円	217,562,000 円	0 円	0 円
事務費掛金		56,433,240 円	56,433,240 円	0 円	0 円

当月分を翌月末納付 納付率100%

〈まだ年金を受け取っていない(受給待期者)方へ〉

令和6年度の第三年金の運用利率が0.2%に決定しましたので、お知らせいたします。なお、利率は下記により決定いたします。

利率：10年国債の応募者利回りの過去5年平均

※参考までに過去の利回りは右記の通りです。

令和5年度	0.1%	令和2年度	0.1%
令和4年度	0.0%	令和元年度	0.2%
令和3年度	0.0%	平成30年度	0.3%

令和5年度 資産運用結果レポート

運用利回りは+7.89% 資産残高合計2,042億円

■令和5年度の当基金の運用結果

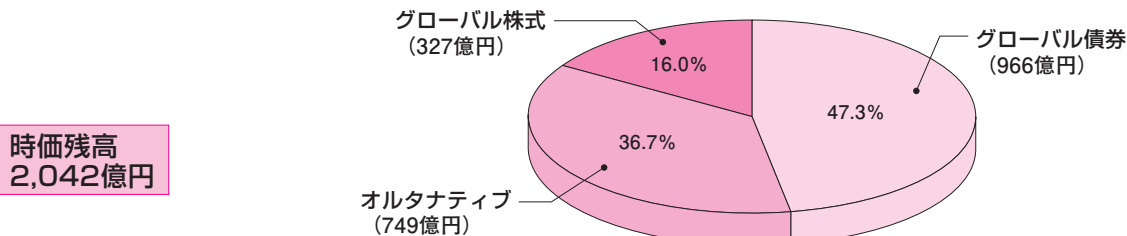
外国株式は、米国のハイテク株などの好調を受けて上昇、国内株式も円安などの影響もあり、3月には日経平均株価が4万円台と最高値を更新するなど大幅に上昇しました。米国の10年国債利回りは、利上げ見通しが後退し債券価格は上昇、国内債券も米長期金利の影響を受けましたが、日銀の金融緩和政策の修正に伴い小幅に推移しました。基金全体では、+7.89%となりました。

■令和5年度 資産構成別運用結果 (令和5年4月1日～令和6年3月31日)

	当基金の収益率(a)	市場の収益率(b)	差異(a)-(b)
資産全体	7.89%	10.61%	▲2.72%
グローバル債券	2.00%	▲1.99%	3.99%
オルタナティブ	8.19%	17.82%	▲9.63%
グローバル株式	28.36%	40.79%	▲12.43%

■令和5年度末 資産構成割合

各資産に分散投資してリスク分散を考慮しながら運用しています。



■基本ポートフォリオについて

当基金では、中長期的に必要な収益を確保するために最適な資産配分である「基本ポートフォリオ」を策定し、これを遵守しながら資産運用を行っています。

基本ポートフォリオは制度変更や大幅な人員構成の変化など、前提条件の大幅変更がない限り5年程度は維持し、長期運用を行います。

■新基本ポートフォリオ

グローバル債券 50%	オルタナティブ* 35%	グローバル株式 15%
----------------	-----------------	----------------

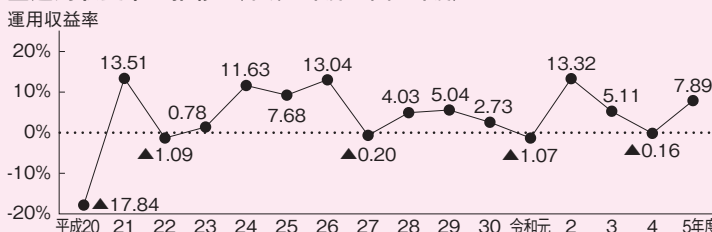
※オルタナティブとは債券、株式以外のことで、不動産、ヘッジファンドなどの資産。債券、株式との分散投資効果や収益源泉の多様化を期待しています。

■基金の資産運用

■年金資産は長期運用

資産運用は市場環境に影響を受けますので、単年度で見ると目標とする運用利回りを達成できない場合もあります。しかし、基金制度は長期間にわたって制度が継続するよう設計・運営されており、資産運用においても、中長期的に収益を確保することを目標としています。

■運用収益率の推移 (平成20年度～令和5年度)



■スチュワードシップ活動

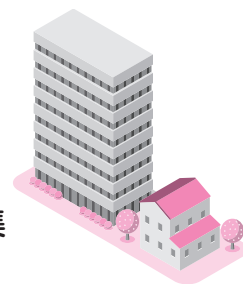
当基金は、「資産保有者としての機関投資家」の立場として「責任ある機関投資家の諸原則《日本版スチュワードシップ・コード》※」の趣旨に賛同し、2023年2月に受け入れを表明し、活動を開始しました。これは、運用受託機関に対し、サステナビリティを考慮した対話を通じて投資先企業の企業価値向上や持続的な成長を促すことにより、当基金の中長期的な投資リターンの拡大を目指す活動です。

昨年度は、運用受託機関の活動内容を適正に評価するための評価基準を制定し、スチュワードシップ活動の状況を運用コンサルティング会社同席のもと個別にヒアリングを行い、当基金の方針及び原則に照らして適切に対応していることを確認しました。この評価内容は各受託機関にフィードバックするとともに、評価基準そのものも毎年見直ししていくことで、受託機関・当基金双方の活動内容のレベルアップを図ってまいります。

※日本版スチュワードシップ・コードの詳細については、基金のホームページをご参照ください。

高齢者の住宅と生活環境について

令和6年版の高齢社会白書では、高齢者の住宅と生活環境をめぐる動向が特集されています。どのような傾向があるのか見てみましょう。

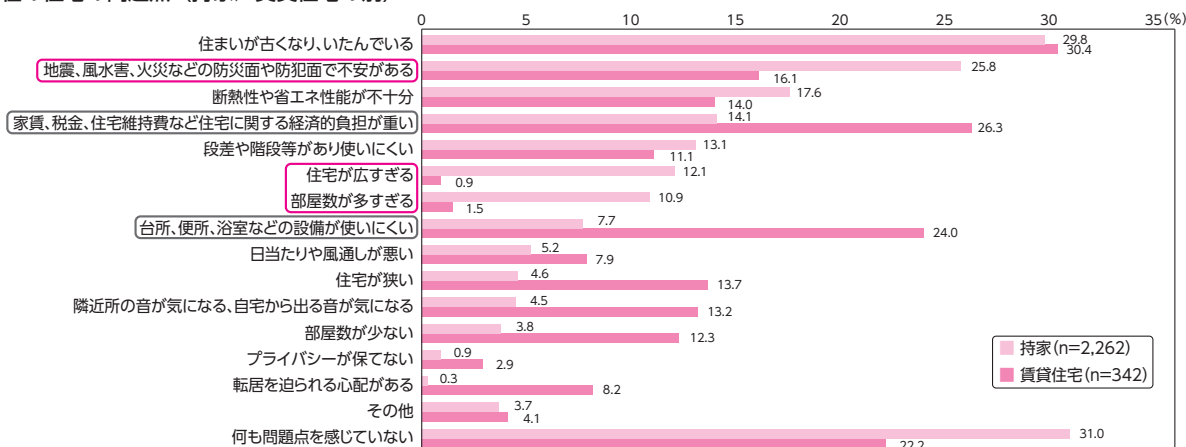


持家と賃貸住宅で住宅の問題点やニーズが異なる

現在の住宅の問題点については、老朽化や段差・階段の多さを挙げる人の割合が全体的に多く、持家の場合は「住宅が広すぎる」「部屋数が多すぎる」「防災面や防犯面で不安がある」と答えた人が多かったのに対し、賃貸住宅の場合は「家賃等の経済的負担が重い」「台所・浴室等の設備が使いにくい」と答えた人の割合が多くなり、傾向が分かれる結果となりました(図表参照)。

さらに、60歳以降で住み替えの意向がある人は全体の3割ほどで、住み替えの意向を持つ理由としては、健康・体力面での不安や、現在の住宅の住みづらさ、買い物や交通の不便を挙げる人が多い結果となりました。住み替えに向けた望ましいサポートについては、住み替え費用の支援や物件・支援制度等の情報提供を挙げる人が多かったものの、持家の場合は現住居の処分にに関する支援のニーズが大きく、75歳以上の人は見守りや買い物といった身の回りの生活支援のニーズが大きいなど、きめ細かな対応が必要であることが分かりました。

図表●現在の住宅の問題点(持家/賃貸住宅の別)



ひとり暮らしの高齢者は災害対策をしていない傾向に

地震など災害への備えについては、防災情報の入手や避難場所の決定などを行っている人の割合が平成30年度の前回調査よりも大きく上昇し、防災意識が高まっていることが分かります。その一方で、ひとり暮らしの高齢者については、「何もしていない」と答えた人の割合が高く、他の項目でも対策をしている人の割合が少ない結果となっています。

白書では、調査結果から見えてくる課題に対して住宅のリフォームや災害対策、住み替えの支援などに取り組む必要があるとしていますが、自治体によっては、住宅に関する各種補助制度があるほか、空き家対策を兼ねた入居支援や送迎サービスの充実、終活支援などさまざまな取り組みを実施しているケースもあります。

日常的な災害への備えや、地域の人とのコミュニケーションを意識しつつ、お住まいの自治体ではどのようなサービスがあるのか情報収集を行ってみてはいかがでしょうか。

基金事務局より

平素は当基金の運営にご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

2023年度は、22年度のマイナスリターンから一転して、国内では日経平均の史上最高値の更新等、株式市場は堅調に推移、米国でも生成AI銘柄を中心に株価が大きく上昇しました。結果として、基金全体ではプラスのリターンとなり、年金財政は引き続き良好な状態を保つ

ております。

先の見通しが難しい環境が続きますが、基金としては今後も市場の動向を注意深く見守りながら、長期的に安定した運用・運営を心がけてまいります。

また、今回の基金だよりから、新たにスチュワードシップ活動についてのご案内も記載しております。

引き続き、基金の状況をお伝えしていきますので、今後ともご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

旭化成企業年金基金 理事長 内炭 広志

摩天崖

てくてく歩く 日本の絶景



写真提供：PIXTA

● アクセス

別府港（西ノ島町）から摩天崖駐車場まで車で約25分

問 一般社団法人西ノ島町観光協会

〒684-0303
島根県隠岐郡西ノ島町大字美田4386-3
TEL : 08514-7-8888
URL ▶ <https://nkk-oki.com/japan/information/matengai-promenade/>

島根県沖に浮かぶ隠岐諸島。人が住む4つの大きな島と約180の小島からなり、ユネスコ世界ジオパークに認定されるほどの雄大な自然と独自の文化が息づいています。中でも、西ノ島町にある「摩天崖」の並外れたパノラマは圧巻です。巨大なナイフで垂直に切り取られたような海拔257mの大絶壁は海蝕作用によるもの。周辺一帯は放牧地となっていて、牛や馬がのんびり草を食む姿が間近に見られます。